

2022年3月31日

株主各位

大阪市中央区城見一丁目3番7号  
松下IMPビル25階  
クリヤマホールディングス株式会社  
代表取締役CEO 能勢 広宣

## 第82回定時株主総会における質疑応答の概要

3月24日開催の当社第82回定時株主総会における質疑応答につきまして、その概要をご報告いたします。

- Q1. 特別利益に米国連結子会社の債務免除益（5億1,400万円）が計上されているが、なぜ融資を受けたのか。また、なぜ免除になったのかについて教えていただきたい。
- A1. アメリカ政府によるエッセンシャル（社会生活を営むうえで必要な）事業者の事業存続と雇用を守るためのコロナ対策融資です。当社の米国連結子会社もエッセンシャル事業を行なっている会社と認定されて融資を受けました。当初は返済する予定でしたが、アメリカ政府の返済の必要がないという判断を受けて、特別利益に計上しました。
- Q2. イタリア製スポーツアパレル「MONTURA」事業について、黒字化の目途について及び販売におけるECの販売比率について教えていただきたい。
- A2. ECも実店舗も販売が伸びていますが、全体としてまだ営業費用を補うまでには至っておらず赤字になっています。あともう少し売上が増加すれば営業利益が出る段階に来ているので、今期黒字化したいと思います。ECの販売比率は25%くらいに伸びてきていて、実店舗の方が伸びは小さくなっています。
- Q3. ウクライナ情勢の影響もあって有利子負債（約90億円）の金利が上昇傾向にあるが、対応について教えていただきたい。
- A3. 2015年あたりからM&A等で資金需要があり有利子負債は増加していましたが、年々圧縮しています。将来の設備投資を考慮しながら、有利子負債は圧縮する方針ですのでご安心ください。
- Q4. リストラも完了して欧州・南米事業は黒字転換したようだが、今後も大丈夫か説明いただきたい。
- A4. 過去にリーン生産方式を導入し、クリヤマグループの生産や在庫管理の手法を取り入れました。リストラはあまり行わず、生産方式の効率化を図ってきましたが、それも一巡して、減損も行ない黒字転換できました。今期の情勢は不透明ですが、売上を伸ばしていきたいと思っております。

- Q 5. ホース事業について、昨年の有価証券報告書では顧客の値下げ要請や競争激化で販売価格が低下傾向にあると記載されていました。最近では原油価格の上昇で樹脂の原料レジンも値上がりしている。それに伴い販売価格の調整を実施していると思うが、どの程度値上げができているかを教えてください。
- A 5. 原材料は一昨年からは原油価格が上昇しており、ゴムや樹脂でできているホースの原材料価格は急激に上昇しております。また、米国では人件費やロジスティクス費用も上昇しておりますので、昨年からは顧客への価格転嫁を出来るだけタイムリーに行なっておりまいた。
- Q 6. Q 5 の質問に関連して、値上げのタイムラグについて教えてください。
- A 6. 北米の販売方式は約 2,500 社の販売代理店をもっており、この販売代理店に交渉して値上げを実施することになります。できるだけタイムラグが無いように価格転嫁を行っており、2021 年期中に北米の営業利益が出ているのは価格転嫁を行なった結果であると見て頂きたいと思っております。
- Q 7. ウクライナ情勢について、販売への影響と今後の懸念材料について教えてください。
- A 7. ウクライナ情勢は不透明な状況ですが、ロシア、ウクライナと直接取引で販売、仕入れを行なっているケースは少なく、直接的な影響は少ないと思っております。ただし、世界的なインフレ傾向や原油高により、当社製品の原材料高につながる恐れが多分に有りますので、状況を注視してまいります。

以 上